ミニデイサービス便り

頭の体操

歌舞伎でお馴染み大泥棒の「白波５人男」七五調の語り口が軽妙で心地いい。

「さて、その次にひけぇしは・・」

なんてやれば、ムカムカする気持ちも少しは、スカッとしてもらえるかと「まごころ８人衆」をすることになった。

白波５人男のせりふはちょっと難解。そこで、皆さんには、ご自身のこれまでの人生を語ってもらうことにした。書けない人はスタッフが聞きながらメモをとる。

もうみんな必死に頭を使いながら、ブツブツ言っている。午前中はあっと言う間に過ぎた。出来あがった「名せりふ」

ちょっと紹介しましょう・・・

「知らざぁ言ってきかせゃしょう／生まれは大正十五年／異国の窓口オランダ坂で／長崎産湯を使いしは／末は博士か大臣の玉の輿よと騒がれて／器量善しとの評判の小町娘とあちこちの／男からのプロポーズ／・・・」

皆頭を使いました。

このご披露は５月の総会／お目にかかってもらいましょう

平成13年３月のミニデイサービス

研修南保育園3/1、15　事務所3/8、17、22、29

３月の予定

1日（木）会報「まごころ」」発行
　　ミニデイサービス（場所・保育園）
　　−宮城ボランティア　宮田、田中
1～2日　住民参加型在宅福祉サービス　全国研究セミナー（全社協）
4日（日）定例会
7日（水）運営委員各部会
8日（木）ミニデイサービス（場所・事務所）
　　−宮城ボランティア　大橋、古田
14日（水）運営委員各部会
15日（木）ミニデイサービス（場所・保育園）
　　−宮城ボランティア　小木曽、古田
17日（土）ミニデイサービス（場所・事務所）
18日（日）まごころ主催：映画とシンポのつどい
　　「ホーム・スイートホーム」（−宮勤労福祉会館）
19日（月）−宮城ボランティア　谷、川合
21日（水）運営委員各部会
22日（木）ミニデイサービス及びミニデイ定例会（場所・事務所）
　　−宮城ボランティア　倉知、古田
23日（金）−宮市在宅療養支援システム・シンポジウム
26日（月）−宮城ボランティア　岩田、川合
28日（水）理事会
29日（木）−宮城ボランティア　村瀬、野田
　　ミニデイサービス（場所・事務所）
31日（土）山下病院市民講座：がん診療の歩みと未来（市民会館）

4月の定例会は

4月1日(日)事務所
◆定例会　9時30分～12時30分
◆勉強会　9時30分～10時30分
　　10時30分～12時30分
内容・「緊急時の対応」について
講師・日赤の方にご指導いただきます

報告

「全国宅老所・グループホーム研究フォーラム2001」から　当会3名参加

時・2月17日～18日／所・熊本県熊本市

痴呆高齢者が、地域の中でこれまでの生活を維持することを支援する宅老・グループホームが注目を浴びている。今回のフォーラムは、全国の様々な分野の活動者、研究者が、現状報告／実態調査／新たな試み・実践と可能性／痴呆高齢者の生活の質、スタッフの資質などをそれぞれの視点から発表され、問題提示がなされた。

現状と課題・方向性

◆「通えて、泊まって、暮らせる」宅老・グループホームの規模、立場は様々だが、思いと情熱での活動現実は精神的、経済的、肉体的に重くて深い。

◆「小さいことはいいこと」だけではなく、生活者のニーズは多様化し、住み慣れた地域に小規模多機能な活動が求められている。特に、宅老所はこの多機能が求められており、その責務は大きい。

◆大きな特別養護老人ホームにも施設内ユニットケアの方向が注目されはじめている。

◆行政は、宅老・グループホームは今後の高齢社会に必要なものとし、小学校区、町内会に１カ所を目指す方向性を示している。

痴呆老人へのケア

◆痴呆老人の行動を問題行動としないこと。本人にとって意味ある行動であり、当たり前の行動であることを認識。

◆そのまま受け入れ、見守り、居場所を作る。

◆団体扱いにしない。一人一人に対応。机上の勉強ではなく体験で学習する必要がある。

また、宮城県の浅野県知事は鼎談の中で「これまでの手作りの草の根による活動の芽をきちんと集約、マニュアル化できれば、新しい日本型の福祉になるのではないか」と草の根団体活動への評価と期待、必要性を述べられた。学ぶことが多い２日間でした。

聴心器

「打ち上げ」　　加固　俊男

昨年４月よりこのコラムを担当し、早くも最終回を迎えました。

第一回「見守り」は介護保険のスタートに合わせた題材ですが、現実との解離に青臭さが滲んでしまいました。第２回「ペット喪失症候群」を書いたのは、後に「呼びかけ」に書いたアビを我が家に迎えて２ヶ月目の心境を吐露したものです。

第３回「ケータイ」は人間の第七感ともなるケータイ文明について意欲的に書きました。第四回「不整脈」は題材に困った末、医者のはしくれとして研究のテーマを選んだのですが、やや無理筋という感じです。

第五回「底雪崩」はブランド嗜好、安全神話、大樹信仰などの崩壊を述べました。第六回「ちょっといい話し」は八月のけだるい暑さの中で一服の涼を求めました。

第七回「緩衝」は突然の洪水から文明、自然について思いを馳せ、さらに医師としての見解を述べましたが、無理な例えに辟易されたかもしれません。第八回「食い違い」はよくある病院ネタを使い、休憩させてもらいました。

第九回「呼びかけ」は肉親との死別体験をオーバーラップさせました。昨今の家庭内暴力、幼児虐待などは病院内（家庭外）死別、水洗トイレ普及などによる生命体としての体験の欠如が原因ではないかとつくづく思います。あばらに指が埋まるほどやせ細ったアビは、今では皮下脂肪に指が弾き出されるほど太ってしまい、ダイエット中です。第十回「循環」は二十一世紀中に行き詰まるであろう大きな社会問題を循環器病にこじつけて切り取ってみました。

第十一回「メール」ではメールにエールを送り、ついでに我が医療相談をここぞとばかり精一杯自慢しときました。総じて、自然、文明、家族愛についてのテーマばかりで、芸術、宗教、歴史感などが欠落しているのは否めません。タイトルを聴心器としたのは心を聞ける医師になりたいという願望を込めたものです。

一年間有り難うございました。　（加固内科クリニック院長）

感謝と報告

毎号楽しみにしていただきましたコラム「聴心器」は、残念ですが今月号で最後となりました。

加固先生には大変お忙しい中、昨年四月から一年間にわたり、様々な視点で原稿をお寄せいただき本当にありがとうございました。

会へ賜りましたご支援に心から厚く御礼申し上げます。加固先生の今後のご活躍を心からお祈り申し上げます。

１月会員登録状況

協力会員	43人
利用会員	71人
賛助会員	125人
計	239人

１月有償活動

在宅活動件数	24件
〃活動人数	21日
〃活動時間	305 時間
ミニデイサービス利用者	36人
移送サービス利用件数	48件

１月介護保険訪問活動

訪問件数	41件
家　事	449.5 時間
複合型	184 時間
身　体	207.5 時間
合　計	841 時間